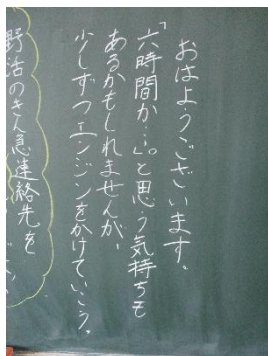


「やる気スイッチ」をおしたくなるしかけ

自転車のこぎはじめと同じで、何かを始める時には大きな力が必要です。約40日休んでいた子どもたちにとって、学校での生活リズムを取り戻すには時間がかかります。(教師も)誰かが「やる気スイッチ」を押してくれるなら有難いですが、「やる気スイッチ」を押すのは本人しかできません。そんな中、校内散歩していると右のような板書やコーナーを発見。「やる気スイッチ」が入りにくい状況に共感しながらも、「頑張ろう」というメッセージ。さらには、図工のワクワクする作品を展示し、「これからつくるんだ」というゴール像を知ることと「楽しそう」と「やる気スイッチ」が入っていきますね。

子どもの気持ちに共感しながらも、「やろう」という気持ちになるしかけ、ステキですね。



☆9月8日(月) 府中中央小学校授業研究に関わって☆

クラス・教科	中央小会場	参加者(敬称略)	協議会(南小でオンライン)
1年1組(生活科②)防災	1年1組教室	☆大野・田中・宇土・夏森	1年1組教室
1年2組(音楽科)	第一音楽室	☆宮内・久保・相田	1年2組教室
1年3組(体育科)	多目的ホール	☆榎田・大森・難波・山地・中島	1年3組教室
1年4組(生活科①)水あそび	児童玄関	☆金信・長本・山口・大屋	1年4組教室

クラスルーム 7kraxws

☆の方は、協議会のPCセッティングをお願いします。

授業研究 8:30~9:15(中央小) 協議会 15:00~15:50 指導講話 15:50~16:30(南小 オンライン参加)

※事後アンケートを職員室のクラスルームに入れております。研修終了後、入力をお願いします。

授業の中にアウトプット場面を!!

45分間、集中するというのはなかなか難しいことだと思います。しかも、一日何時間も。発達に課題を抱えている子などは、より集中しにくい状況があります。45分間を15分間×3ユニットとして捉え、活動内容を変えるなど工夫をすることで、集中がしやすくなる子もいます。また、さりげなく立ち歩いて交流する指示などを出すことで、気持ちが切り替えやすくなる子もいます。「集中しなさい」「座っておきなさい」だけではなく、教師の授業デザインを工夫することで、子どもたちが学びやすい環境を整えていきたいですね。

右の図は、「デールの経験の円錐」と言われるものです。学習後2週間経過して、どれだけ覚えているかというものです。下に行くほど理解が深くよく覚えていることを表しています。一方で上の方の学び方では、理解が浅いことを表しています。教師から説明の言葉を聞くだけのインプット中心の授業ではなく、ペアで考えを交流したり仲間に教えたり、自分の言葉でまとめるなど、アウトプットする場面に授業にデザインすることで、子どもたちの集中力・理解力が高まっていきやすくなります。「アウトプット場面」を意図的に取り入れましょう!

読む	受動的
言葉を聞く	
写真を見る	
テレビ・映画を見る	
展示を見る	
実演を見る	
実際の現場を見学する	能動的
討論に参加する	
そのことについて話をする	
体験を劇化してやってみる	
実体験をまねてやってみる	
実際に体験する	